令和８年８月６日

令和８年度　学校関係者評価委員会報告書

学校法人　大原学園
姫路情報ＩＴクリエイター専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

学校法人大原学園　姫路情報ＩＴクリエイター専門学校　学校関係者評価委員会は、令和７年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

１．学校関係者評価委員会の実施状況

（１）実施日・場所

日時　　令和８年８月６日（木）15:00　～　16:00
場所　　大原学園姫路校　６階06A 教室

（２）出席者

①学校関係者評価委員

成田　篤史　青山商事 株式会社　店長
吉田　明史　姫路中央病院　事務部長
黒田　美沙希　株式会社　サップス　フィットネスインストラクター
岸　昌二　株式会社 オーティエス　会長
後藤田　浩二　防衛省自衛隊兵庫地方協力本部　姫路地域事務所　所長
＜欠席者＞　髙橋　真由美　学校法人 五字ヶ丘幼稚園　園長

②事務局

髙木　法子　学校法人大原学園　校長
百合　功治　学校法人大原学園　課長
久保　昌弘　学校法人大原学園　課長補佐

（３）配布資料

・令和７年度　自己点検・評価報告書
・学校関係者評価委員会　会議資料

（４）議題内容

令和７年度の自己点検・評価報告書について説明を行い、特に提言を頂きたい重点項目について、学校関係者評価委員へ伝達したうえで開催された。

２．学校関係者評価委員会の評価結果報告

重点目標	具体的方策	学校関係者の評価・提言
学園の教育指針として、各コースにおける目指すべき卒業生像を掲げ、その実現に向けて学生指導に臨む	日々の学生指導やキャリアデザイン、ビジネスマナー等の授業を通じ、目指すべき卒業生像に近づくよう指導しているが、その徹底に課題が残る。	黒田委員：昨今の新入社員は、困難な状況に立ち向かわず、それらから逃げてしまう傾向が見受けられる。就職先を前向きに理解し、意欲的に取り組む姿勢を身に付けてもらいたい。 岸委員：社会人の基礎として、コミュニケーション力を持っていないと、同僚や上司と良好な関係を構築できず、職場に定着できないと考える。コミュニケーション力を身に付け、他者を理解できる能力を身に付けてもらいたい。 成田委員：コミュニケーション力や周囲と協同できる能力を身に付ける必要がある。また、世間では転職を是とする風潮があるが、それにはメリットとデメリットが伴うことを学生のうちに理解させておくことが肝要である。 吉田委員：働くことに対する心構えをしっかりと備えておいてほしい。コミュニケーション力とは、単に他人と仲良く話をすることではなく、それが報連相に繋がっていかなくてはならない。また、主体的に判断して行動できる力が重要である。社会人になれば、教えてもらっていないからできないということは通用しない。 後藤田委員：コミュニケーション力として大切なことは、相手の話をしっかりと聞き、自分の考えを分かりやすく伝えることである。また、自らの役割を最後までやり遂げる責任感を持った学生を育ててもらいたい。
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	ホームページのリニューアルを行っている。学園統一の内容から各校独自色を出す試みだが、見やすさや必要な情報が掲載できているか今後も改善する必要がある。	黒田委員：ホームページやSNSについては、大原学園の強みである就職や資格取得実績が掲載されており、大きな問題を感じない。SNSに社会貢献活動やスポーツ大会のボランティアの様子を掲載してみてはどうか。 岸委員：高校生やその保護者は、ホームページやSNSが情報収集のツールとなっている。大原学園のホームページやSNSについては、特に問題点を感じないが、自治体等がデザイン等を公募していたり、商店街が企画していたりするものがあれば、積極的に参加していくのも、学校の存在を周知する手段としては有効ではないか。 成田委員：学校の情報を広く浅く掲載するよりは、例えば地元就職など、学校の強みを強調して掲載する方が他との差別化が図れるのではないか。また、入学後に感じたギャップについてアンケートを取り、それらについての改善や対応を掲載することで、高校生や保護者の不安を和らげることができるのではないか。ボランティア活動の様子をSNSで掲載するのであれば、学校のロゴマーク等が記されたおそろいのポロシャツを着て活動するほうがPRにつながる。 吉田委員：インスタグラム等のフォロワー数が伸び悩むのは、各事業所共通の悩みである。フォロワーを逃さないように、段階的に魅了を伝えていくことが大切である。そのために、地域活動に積極的に参加し、学生が楽しそうに活動している様子を伝えていくことも一つの方策である。また、入学した学生が、大原での学習を通じて成長していく様子を伝えることで、

		安心して通える学校であることを伝えていくことも検討してはどうか。 後藤田委員：昨今では、紙媒体の広告には発信力がない。ホームページやSNSが中心になるが、一度掲載したものは取り返しがつかず、慎重に掲載する必要がある。ターゲットを明確にし、誰に何をどのように訴えるかをよく考える必要がある。
様々な特性を持った学生に対し、学習支援や生活支援等を適切に行っているか。また、学生の退学防止について、適切な対応をしているか。	発達障害やLGBTQ、起立性障害など様々な特性を持った学生が入学してくるが、その特性に配慮し、適切な環境を提供するには、人員の数や専門性、施設設備の面でなお課題が残る。	黒田委員：学生自身が自らの特性をどこまで理解しているかも重要だが、学校側がどのような配慮や支援が必要かを、本人および保護者に聞き取ることがさらに重要となる。退学防止については、学生を孤立させないよう、学生同士のコミュニティを多く築いていくのがよいのではないか。 岸委員：退学防止については、学生の発するシグナルを早期に把握し、学習や学校継続の障害となっているものを取り除いてあげることが必要である。 成田委員：匿名で通報や相談ができる窓口を設置するのはどうか。また、学生の異変を敏感に察知できるような職員の配慮も必要だ。そのためには、職員が学生一人ひとりと面談を行う機会を多く設けるべきである。 吉田委員：外国人に対しては、ある程度の日本語が理解できる学生が入学していると思うが、意思疎通をより円滑にするため、配付書類には平仮名でルビを打ったり、場合によっては、日本語でコミュニケーションをとる勉強会などを開いたりするのが効果的ではないか。また、精神的な不調を持っている学生については、早めに気付いてあげることが重要である。さらに、外部のコンサルタントに頼ることも必要となる場合がある。 後藤田委員：学生を公平に扱うことが重要である。また、三者面談等を通じ、保護者と連携して支援をしていくことが必要である。退学防止については、早期に兆候をつかむこと、また、相談しやすい体制を整えることが大切である。
地域の中にある学校として、地元地域との連携や社会貢献活動に積極的に参加しているか。	学校周辺の清掃活動や防災フェア、姫路城マラソンのボランティア活動等に取り組んでいるが、実施回数や学生の自主性の面で課題が残る。	黒田委員：スポーツ大会のボランティア活動に積極的に参加していくことで、臨機応変に対応する力やコミュニケーション力が身につく。 岸委員：災害時の受け入れ施設として、有事の際には学校を開放してはどうか。 成田委員：地域との連携強化という意味で、中学生の「トライやるウィーク」を受け入れてみてはどうか。中学生に学校をアピールしてもらうことで、中学生にとっては専門学校や職業に対する理解が深まり、大原学園としては絶好のPR機会となるし、地域や保護者にとってもメリットがある。 吉田委員：ボランティアの目的として、学生自身の成長があるが、学校のPRにもつながる。 後藤田委員：ボランティア活動は、地域との連携や社会との繋がりだけでなく、社会人基礎力や責任感を養う絶好の機会となる。防災や福祉、子ども食堂などの活動を知り、異なる価値観に触れる機会にもなる。また、学生自身の成長にもつながり、就職活動の際に自己PRの一つとして役立つ。

５．学校関係者委員会総括

学校関係者評価委員会において、本校の教育活動、学生支援、募集活動、地域連携について協議を行った結果、学校運営は概ね適切に行われており、教育目標の達成に向けた取り組みが着実に進められていることが確認された。

委員からは、社会で求められるコミュニケーション力、主体性、責任感及び協働する力の育成を引き続き重視すべきとの意見が多く示された。 また、学生募集活動においては、本校の強みである就職実績や資格取得実績に加え、地域活動やボランティア活動、学生の成長過程などを積極的に発信することで、学校の魅力をより効果的に伝えることが期待された。

学生支援については、多様な特性を持つ学生への理解と配慮を深め、保護者や関係機関と連携しながら、相談しやすく安心して学べる環境づくりを推進することの重要性が確認された。 さらに、地域貢献活動やボランティア活動は、学生の成長や社会人基礎力の向上につながるだけでなく、学校の認知度向上にも寄与することから、今後も積極的な取り組みが望まれるとの評価を得た。

本校としては、今回寄せられた評価・提言を真摯に受け止め、教育の質向上と学生満足度向上に向けた改善を継続し、地域社会や産業界から信頼される学校づくりに努めていく。

文責：髙木　法子